

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2292300205		
法人名	(株)アイケア		
事業所名	グループホームあいの街富士川		
所在地	富士市岩淵131-1		
自己評価作成日	平成 27年 12月 9日	評価結果市町村受理日	平成28年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JivvosvCd=2292300205-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JivvosvCd=2292300205-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年12月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「利用者の声」を大切にしているということ。(普段の生活～イベント全て)なるべく個々の対応を心がけている。GH内が明るく穏やかで、利用者からスタッフまで笑顔や笑い声が多い。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

朝の一斉掃除では利用者も消毒を担当するリビングはすっかりクリスマスカラーです。色紙6枚で星形に制作したモールがエアコンの風に揺れ、毛糸のぼんぼり、綿棒の星、ツリー、季節の貼り絵、外出写真と至るところに笑った足跡がみられる温かな共用空間です。合唱披露や運動会などで日頃から行き来のある隣の小学校の窓から見えた星形モールは「あれ作りたい!」との声があがり、指南したとの微笑ましいエピソードもあります。そのため介護度が下がることは稀ではなく、見当識もはっきりとしているため「誕生日を祝うケーキは季節でデコレーションをアレンジしたいのに替えられない(比較してしまうため)」ほどです。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入口のところにスタッフ写真と共に掲示。日々心がけ業務にあたっている。	「みんなはひとりのために、ひとはみんなのために」を体現する個別対応の態勢を整えており、例えばプランに基づき全員の1日の流れをA4版1枚にまとめあげ、さらに毎月再作成して実践の下支えとしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事に必ず参加。ボランティアとの交流。施設行事にも地域の方を招待。普段も散歩中に知り合いと会い会話の機会もある。	園児、学童との交流が日常的にあり、演舞や合唱披露でも愉しませてもらっています。窓から相互の様子が見えるため、「あの飾りがつくりたい！」と小学校のクラスで同じものを作ることがあるほどです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議にて情報提供。オレンジリングの研修会も実施。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催。写真や実際の作品を見ていただきながらの報告。意見も後のミーティングにて報告し取り入れている。	運営推進会議の議事録は時節に沿った温かみのあるイラストが目を惹きます。欠席でも家族の元に届き、1日の流れと今後の予定が記載されていることで面会訪問への道しるべもなっていることが視えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議を活かし情報交換いろいろな面で協力いただいている。	昨年は会場をまちづくりセンターとして認知症サポーター養成講座をおこない、また区長の尽力もあって知名度は確保されています。そのため介護相談が直接入ることもあり、何かあれば行政に問い合わせています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は行っていない。	若い職員らが家事指導を仰ぐ場面を積み重ねてきたためか、利用者には職員を育てたという自負があり親子のような上下関係がみられます。それに呼応して経理を職業としていた人は事務所に、農家だった人は朝7時から畑にと自由な行き来が自然にあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	本社研修を行い、その資料をスタッフにおろしその都度見直し、スタッフの意識を高める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本社会議、研修にて学んでいる。活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず説明、了承を得た上で契約。改定の際も必ず説明会など開き承いただく。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議にて家族の意見を聞く。日ごろの面会時の情報交換を大切にしている。	写真と手書きの、目にも鮮やかな便りが毎月郵送され、また利用者の発語は面会で家族に提供できるよう会議で情報共有しているため、家族ニーズをスムーズに聞くことができます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて利用者情報だけでなく勤務体制も話し合う。個々に話をする機会も設けている。	パートタイマー職には特に時間を守り、総じてプライベートが充実するよう支援していますが、職員からもシフト等への相談が個別にあります。法人も「離職率ゼロ」を目指し、例えば年4回ほど懇親会費用の補助があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。個々の得意分野を把握し役割分担。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加。積極的に資格取得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会参加。他施設とも気軽に連絡、情報交換できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り要望にあった環境づくり、本人の訴えを見逃さず、ミーティングにて検討し、解決する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に話す場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	項目16にて挙げた内容、本人の状態も見ながら検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の状態を把握したうえでフォローする。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来やすい雰囲気づくり。年1度の行事にはほぼ全員の家族が参加。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人とお茶会などの機会設けている。	以前よく花見をしていた場所と聞けば皆で弁当持参でかけ、カメラが趣味だった人にはイベントの撮影係をお願いし、また縫い物が得意な人は緩やかに下がる状態に合わせたメニューを提案することで続けられています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの席配置などいろいろな面で考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。会う機会がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月1度必ず状況把握をスタッフ全員で行い情報共有。対応の見直し改善、	月に3枚以上と決めたヒヤリハットは「いけないこと」ではなく「気づいたことがいいこと」との認識の高まりから新発見が増えています。入浴時間のほか、利用者が職員を自室に誘い何時間も話し込むこともあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のコミュニケーションの中の情報を大切にす。項目23にて挙げる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	23同様		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	23同様。ケアマネと調整を図る。	家族の声をケアマネージャーに届けての合議を以て、PTイレから一般トイレに向上した例もあります。プランを落とし込んだマニュアル(1日の流れ)で実践にも安心があり、サービス担当者会議にも家族の同席があります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に反映。気づきのヒヤリハットの記入。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況は様々なので個々に合った対応を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的な外出、施設内のイベントなども利用者の趣味、生活歴を活かす。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診。緊急時にも対応していただける。	協力医の利便性などから2名が変更していますが、特段奨励もせず他は従来のかかりつけ医を継続しています。家族には管理一覧のコピーを持参してもらいますが、難しい状況にあれば職員が同行しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	経過観察し、記録に反映。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族とまめに情報交換し医師との立ち合い時に同席もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる。	「医療的措置が必要な場合は看取りができない」ことは家族と合意形成できていますが、書面は緊急対応についてのみです。法人本部の年間研修には毎年必ず入っており、代表職員が学んだ内容を勉強会で落とし込んでいます。	かかりつけ医が多いため、看取りに協力してもらえるかどうかを一度確認することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	講習への参加を心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法など消防にも相談。	法定訓練2回のほか、地域の訓練にも職員とともに2名の利用者が出向いています。消防署立ち合いでは「連れて避難できなければドアを閉め窓を開けて中で待っていて欲しい」と具体的な助言も受けています。	職員毎に、体験していないものがないようチェックしていくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	項目23同様。日々の中でスタッフ同士が気を付ける。	それぞれの性格や想いを把握し、できることは自分でしてもらえるよう職員が声がけしていることを視認しました。拒否には時間をおき、人をかえ、無理強いしないように努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず利用者の自己決定を仰ぐ。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで1日1日を過ごしていただいている。強制はしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装から化粧など様々いこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備片づけなど毎日一緒に行っている。	食事前には懐メロを唄い、お茶を飲み、食事が終わると消毒液でテーブルを拭くのは利用者がおこなっています。ご飯とみそ汁以外に惣菜3種と味に変化のあるメニューを利用者同士おしゃべりしながら堪能していました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスも考慮。水分摂取量も管理表に反映。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合った口腔ケア方法を行う。歯ブラシの種類まで。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に反映。失禁がなくなった利用者もあり。	フロアに介助バーもついた2つのトイレがあり、1つは浴室につながっています。ごわつきなど違和感のないパッドを厳選し、また本人の行動に合わせた方法を模索しているため、入居してから4名が向上しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と生活状況をふまえ相談。調整する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	前もって利用者に希望時間を聞く。	3面から脚をいれることができる浴槽に2日に1度の入浴を慣行しています。隔日としたのは「レクリエーションを中断したくない」との利用者の希望からで、中日となる入浴も職員と睦まじく話せる会話レクで華やいています。	換気扇の埃は感染症の時季に入る前に除去し、今後も定期清掃することを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	している。就寝時間も起床時間も人それぞれである。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に医師に相談。調整。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	企画ものは全て利用者の情報を活かし企画する。家事にも取り入れる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	常に対応できるようなスタッフ配置にしている。	レクリエーションが盛んなことから日常に手芸用品の買い物があり、近くの寺院までの散歩では農家から野菜をもらえと、外出の楽しみが広がっているとの特長があります。身延への湯葉ツアーは法人内の車輛で、浜松への大衆演劇は貸切バスでかけました。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族了承の上で使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気軽に電話できる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋とリビングの行き来は自由。自らリビングにいる方が多い。	朝の一斉掃除では利用者も消毒を担当するリビングはすっかりクリスマスカラーです。色紙で星形に制作したモールがエアコンの風に揺れ、毛糸のぼんぼり、綿棒の星、ツリー、季節の貼り絵、外出写真と至るところに笑った足跡がみられる温かな共用空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフがその場の状況を見て配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具を使っている。飾り方も本人仕様。	アクティビティ作品を飾ったりテレビを持ち込んだりと、本人本位の居室を確認しました。表札は「わかるならつけない」とし現在は無標です。家族の趣味のドライフラワーを職員が上手にリース化した飾りが印象的です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	項目23同様。できることは積極的に行っている。		